

なぜ大学が 地域社会の歴史の継承に 協力するのか？

地域の歴史文化資料は、その土地の成り立ちを知り、これからの考えるための道しるべとなるものであり、地域社会の長期的、持続的発展に欠かせません。大災害から地域の資料を救い出し、継承していく取り組みは、阪神・淡路大震災をきっかけに立ち上がった神戸の「歴史資料ネットワーク」を先駆けとして、全国各地に普及しつつあります。

しかし、地域の資料を継承していく方法は、まだ制度的にも技術的にも確立していません。また災害の増加にともない、被災資料の保全（資料レスキュー）はますます大きな課題となっています。

これまでの取り組みに加え、地域で実行可能な資料継承手法の開発普及や、緊急時の相互支援体制の強化が不可欠です。そして、これらは高度な研究開発力と広汎な人的ネットワークが前提となります。

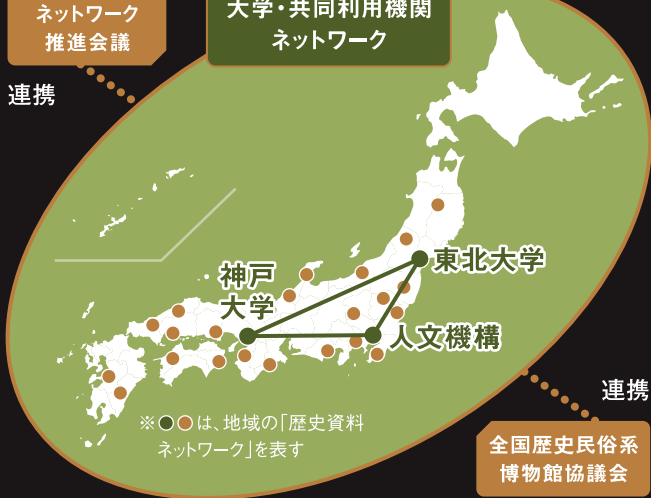
次の時代へ地域の歴史文化を伝えるために、大学の力が必要となる理由はまさにここにあります。そのため、私たちは全国規模の大学による資料保全ネットワークを立ち上げようとしています。

人間文化研究機構・東北大学・神戸大学を拠点とし、資料所在情報の把握・データ記録化・相互レスキュー支援体制の構築・教育プログラムの開発・国際的な情報発信を行なっています。

文化遺産防災
ネットワーク
推進会議

歴史文化資料保全の
大学・共同利用機関
ネットワーク

連携



連携

全国歴史民俗系
博物館協議会

◆ ネットワーク事業からのお願い ◆



私たちは、大学による歴史文化資料の保全ネットワークを組織し、資料所在情報をデータ化することで、その研究資源化や被災資料の保全、地域史研究の市民への還元といった、地域連携にかかる諸課題に対する知見の共有や教育、地域連携の実践をめざしています。

また、それらのバックアップを用意し、恒常的なネットワーク体制を作り上げることで、災害時の資料保全（資料レスキュー）に対する迅速な支援体制を構築しようとしています。

資料や地域史を通じた学術的な地域連携をめざし、このネットワークは活動を続けてまいります。多くみなさまのご協力・連携をお願いいたします。

〒285-8502 千葉県佐倉市内町117
国立歴史民俗博物館内資料保全ネット事務局
[tel] 043(486)4225
[mail] pres-network@rekihaku.ac.jp
[web] <http://pres-network.jp/>

2018.09



歴史文化資料保全の 大学・共同利用機関 ネットワーク事業

— 歴史がむすぶ地域と大学 —

災害科学国際研究所
IRIDeS
International Research Institute of Disaster Science

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国立歴史民俗博物館
National Museum of Japanese History



神戸大学大学院人文学研究科・文学部
Graduate School of Humanities and Faculty of Letters, Kobe University